

# SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No. 3

昭和60年9月25日



堺市博物館（中庭）

## SADAセミナーと懇親のつどい

早春の3月16日、花園大学教授の福島雅蔵先生をお招きし、大丸健康保険組合淡輪保養所で、SADAセミナーが開催されました。当日は会員、賛助会員に日本ディスプレイ協会の木村さんを加えて16名が参加され、福島先生の「堺の近世以降の街並について」のお話と、川崎理事長の「大小路シンボルロード計画の経緯」報告に熱心に耳をかたむけ、また活発なディスカッションがあって充実した時間を過ごしました。続いて恒例の宴事となり、歓談の輪はさらに大きくなり午後9時過ぎ解散、8名が宿泊組で残ることとなり、泉南の夜はおそくまで熱気につつまれておりました。

### ■「堺の近世以降の街並について」講話要旨



福島教授

本日は江戸時代から明治10年ぐらいまでの堺の街の様子についてお話しいたします。

元和元年（1615）の大坂夏の陣の時、豊臣方は大野道犬をして堺の町に放火させて、町は全滅に近い形となりましたが、その後復興

されたものが、戦前までと、戦後も一部面影を残している堺の姿であります。

夏の陣は徳川方の勝利で終わりましたが、家康は堺の町の重要さを考え堺奉行をおき、復興にかかりましたが、奉行のもとで町づくりに当たったのが風間六右衛門であります。これを元和の町割りとしております。

北と東・南の三方に堀をめぐらし、西の方は海であります。大道の並松町のあたりに風間堂というお堂がありますが、風間六右衛門は散在していた寺院を東部に集めて南北に並列して寺町をつくりました。日蓮宗寺院を優遇したために、非難の的となり、江戸に召還されます時に町はずれで割復したといわれ、彼を弔ったのが風間堂です。

元禄2年の堺という30畳敷一杯の大きな堺の町絵図があ

りますが、これは元禄2年に佐久間信就という奉行の時につくられたもので、南北に大道筋（紀州街道）と東西に大小路があって、堺の町を4等分しております。元禄6年までは四辻制と申しまして、南北東西4つの大きな区割りがありそれぞれに総年寄りがおりました。佐久間信就の下にその総年寄が集ってこの大絵図をつくったのです。東西の道筋は大小路の道巾が約9メートルで、他は5.4メートルとし、南北道筋は大道が8.1メートル、それから東西それぞれに3.6メートルと5.4メートルの筋が交互につくられております。大道の東にある通称東六間筋が巾3.6メートル、その次の筋が有名な山の口筋で巾5.4メートルの道巾であり、又大道のすぐ西では西六間筋が巾3.6メートル、次の中浜筋が5.6メートルといった規則正しい区割りをしておりました。そして道をはさんで両側がひとつの町でありました。

さらに一つの特色は、前述したように、東の方に寺町というのがあります。又その外側に堀をこえて「東廻り三ヶ村」と呼ばれている北庄・中筋・軸松、3つの村の農民をかかえて屋敷を与え、いわゆる農人町をつくりました。これらは北から南まであって戦前までそのまま、続いており、堺の大きな特色となっております。

17世紀終りに瀬戸内海に地殻変動があったようで（海変）現在の南海堺駅の近くの土地が隆起し、新地ができ、ここに戎神社を勧請して島名を戎島と称しました。ここに後に茶屋や、定芝居、遊郭が出来、歓楽地として発展しました。

宝永元年、今の和川がつけかえられ、そのために堺の港は埋れてきました。戎島から北の方が中世からの堺の港ではなかったかといわれています。その後江戸の商人吉川依右衛門などが奉行に工事を上申、ゆるされて新しい港を戎島の南につくったのが、戦前までの堺の旧港であります。

町名については、中世の末、堺の町衆の出した寄付金の名簿などにより、市之町、甲斐之町、材木之町、今市町などの名前が見られその名前は近世に引継がれておりますが、位置について同じであったかどうかは疑問であります。いくつか使われている町の名前が、中世の末期にある程度出来ているということは考えられますが、その間を実証的な

資料にもとずいてつないで行くことが歴史の研究でありまして、今後の課題となるところです。

近世の状況について申せば、やはりメインストリートは大小路と大道であり、大道は紀州街道の一部であったために往来ははげしかったと思われまます。堺の経済圏は南の方もさることながら、東の方にも相当のびていたようであり現在の松原市、堺市駅の東部、美原町あたりが堺の商圏となっていたことが記録上実証されています。堺の旧家（名豪家、大きな商家）が大道または大小路に集中していたと考えられますが、たとえば具足屋、伊丹屋、金田屋、高三家といった旧家が大小路、大道に接してやはりこの二筋が重要な道筋であったと見ることが出来ます。

それ以外に同業者町（絹屋町、大工町、樽屋町）という職種による同業者の集团的町づくりが行われ（明治の町名の改正によってこれらの名前はなくなっておりますが）北の方に刃物屋さんが多いというのもそのあたりに同業者の方が中心となって特別の町を形成していたということが考えられます。

江戸時代の状況の平面的な地図は残っていても、立体的に様子をうかがえる資料がなかなか見当りません。

江戸の終りと明治の初めとはさして変らないという考え方を持っておりまして、幕府の政治から明治新政府の政治となっても、それは政治上の変革であって、人々の社会生活、経済上の問題については連続して続いていたのではないかと、そういうことから逆に明治の始めの資料から江戸の状況をうかがうことも出来ると思われまます。

明治16年4月、戎町西一丁に住んでいた川崎源太郎という人が堺の商家案内の本を出されています。「住吉・堺・名所並びに豪商案内記」と称し、明治16年の堺の商家の町並が銅板画で画かれており、これらが江戸時代の堺の町を知る重要な資料になるのではないかとと思われまます。この豪商案内記に豪商として画かれている商家あるいはものを作っている家は約250軒ほどあり、現在も続いている家も多くありますが、店先と家の状況をよく伝えております。

鉄砲鍛冶の店は江戸時代には30軒ほどありましたがこの



案内記の画かれた頃には4軒と減少しております。鉄砲はもはや軍事用ではなく猟銃または百姓の用いるおどし銃として製造がゆるさされておりました。

堺の庖丁はおかた庖丁として全国に冠たる存在でした。石割家の祖先で石割作左衛門がその妻のおかたに相手どらせて槌を打ったので、おかた庖丁といわれておりますが石割と申して石をも割るという鋭い切れ味が堺の庖丁の特色で莨庖丁から料理庖丁、薄刃庖丁とうつり変って現在でも重要な地場産業となっております。案内記には莨庖丁製造所として20軒ほど出ております。

酒造業、醸造業がこの案内記に36軒出ておりますが、江戸時代の堺の産業の大きな特色の一つであります。

他に油問屋、織物の卸問屋、木綿問屋、肥料商、薬問屋、唐糸、認糸店、内国通運会社、レンガ製造所、郵便局の一部などが画かれ、それぞれの店の様子、その軒先の特徴を表現しながら、江戸時代の商業都市として落着いた景観を示しております。

戦災によりこの景観は全く失われてしまいましたが、新しい堺の都市が計画復興されます時は、時代は異り社会経済状況も違いますが、こういうものを土台に考慮した新しい街づくりを実現していくことが必要だと思っております。

こんにちは      ありがとう      さようなら  
**你好・謝謝・再見**

川崎 浩

《居ハ気ヲ移ス、養ハ体ヲ移ス、大ナル哉居》（孟子）  
 人は住む場所や環境に自然に感化されると広辞苑にあり、私は「住環境がその精神形成に及ぼす影響が大きい、だからインテリアを大事にしなさい」と解釈して、インテリアデザインの要諦の如くこの20年あまり話し、書いて重宝している。

昭和の初期、当時の東京高等工芸の卒業生、松本政雄、豊口克平ら10人による同人組織《型而工房》は、形而上的な思想性と工房という実務性とを結合した造語であるが、《形而ノ上者之ヲ道ト謂ヒ、形而ノ下者之ヲ器ト謂フ》（易経）が典拠である。当時の審美的造形を主流とする家具デザインに対して、実際の、理論的な近代量産家具を実験的に生産した運動で、その思考方法は、さらに広い範囲で今日のデザイン界にも影を落している。私達の年代の者は漢文というものを多少かじり「子ノタマワク」を唱えたおかげで、中国の故事成句にあまり抵抗がなく、すうっと入ってくる。

技術と人間性の相剋、科学と人間の心のどうしようもない《かい離》を3000年前に既に問題とし、明解な解答例の示されないうまゝ、その時その時代に合った、極めて現実的な答えを出していた国。4000年の歴史と、10億の人。その国へ…

●中央工芸美術学院 / 唯一の工芸系の大学、1979年美術学院の1学部より独立、8学部で定員500名、30倍の競争率で東京芸大なみである。研究室、実習室、作品展示室を見て歩く。天井が高く日本の大学より立派。大きな製図板でパースを書いている者、室内模型の出来ばえ等なかなかのものである。全寮制で月給がでる、もちろん授業料はなし。院長室で大学紹介の英文スライドを見る。新築中の中央大会堂のインテリア計画案、ベルリンの中国大使館等、大学の先生がナショナルプロジェクトに優先参加するのはどこの国も同じ。

●北京烤鴨 (PEKING ROAST DUCK) / カリカリに焼けた「あひる」の皮以外はどのようにするのかなあと永年思っ



中央工芸美術学院

いたが、皮のすぐ下の身の部分も、そぎ身にして出てくるので皮と同じようにして喰べる。別の小皿に頭をきざんだものというものが出た。やはり同じように、ネギの細切りと味噌をギョウザの皮のようなもので包んで喰べるのがツウだそうで、私はツウでないので喰べなかったが。

●天津市工芸美術設計院 / 1964年創立。装飾美術（パッケージ、グラフィック等）・染色・日常美術品設計（工業デザインとクラフト）とインテリアの4学科があり、それぞれの作品展示室を案内された後、会議室で生徒の作品を批評してくれと、図面がどっさり運びこまれる。中学卒業後4年の課程で（16才～20才）、日本でいえば高等専門学校にあたる。

●市長招宴 / この旅行最大のイベント、季瑞環市長の招宴前日の軽工業局長の時よりはるかに大きな、天井の高い、うやうやしく窓飾りの下った部屋である。メインテーブルで私は市長の正面、茅台酒（マオタイチュー）で乾杯。この人口800万の天津の市長さん、北京の建設局長から3年前に48才の若さで抜擢されたというだけにたいへんな実力者らしく、我々が固くなって全員上衣にネクタイというのに、開襟シャツで、やたらに煙草を吸い、飲み、喰べる。建築・デザインにも一家言をもち、話しが米国籍の世界的建築家のI・M・ペイに及ぶと、ルーブル美術館の中庭に建築中のガラス張りピラミッド形の新館について、滔々と論じられる。デザートのアイスクリュームがたいへんおいしかった。



季瑞環市長(右端)の招宴

●公営住宅の一室と四合院 / 一般の市民の住いを見たがるのがインテリア視察団の癖である。公式にはなかなか許可が下りないらしく、天津を発つ前日の夕方やっと見られた。〈3K〉といったところ、60年配の夫婦が共かせぎの若夫婦と同居していて(中国ではほとんどが共かせぎという)、孫のお守りをしていた。きちんと整理された部屋、敷物、カーテン等日本のそれらよりずっとサマになっている。我々が住の近代化は椅子式で、かどうか、やっとタミから立ち上って30年、中国ではずっと昔から椅子とベッドの生活であったのだ。それに天津は古くから租界のおかげでヨーロッパの生活習慣になじみが深い。寝室には、ロンドンから運ばれたような時代がかった黒塗りの立派な乳母車が置いてあった。3代にわたり使ったとオバアさんがニコニコと説明していた。



公営住宅の一室



四合院(スホーフアン)

四合院(スホーフアン)というのは、中国独特の門を入れて中庭があり、まわりに居住部分の棟が連らなるという伝統的な民家の形式で、これは北京で見ることができた。小さな窓と低い出入口、ゆったりとした室内、長衫と扇子がよく似合う。

●上海博物館 / 日本でいえば超国宝級がゴロゴロ、古い5階建。この人口1200万の中国のドル箱都市、最も欧米的で国際的といわれる都市なのに、大通りの亭々たる街路樹には、蜿蜒と洗濯物が干してある。

●外白渡橋 / 有名なガーデンブリッジのこと、一同バスを降り、橋を渡り、引返してきて写真を撮り、そして各々感懐に更ける。

●静安賓館 / 明日の昼は大阪。朝は早いのでお弁当。最後のお別れパーティをする。ずっと行を共にしてきた通訳の劉さん、上海のガイドの美人の季さんもテーブルに入ってもらおう。

「みんな元気で何よりでした。では乾杯」

(社)日本インテリアデザイナー協会による日中インテリアデザイン交流代表団は、6月29日から7月8日まで10日間、北京、天津、上海を歴訪、樋口治団長以下17名が参加した。

---

**韓国のことなど**

安永一典

先日、ソウルの街角で女学生から道を訊ねられた。正確に言えば道を訊ねられたらしい。「私は日本人なので…」と僅かばかりの韓国語で答えると、「ウッソー ホントォ」らしき言葉を発して、キャーキャー笑いながら走って行ってしまった。先日、と書いたのは、このようなことが度々あるからである。私は余程韓国人的な顔付きをしているらしい。彼らと三、四名でレストランに行く、日本語も聞えるから日本人もいるらしい、と思うのだろう、だがウェイターは何の迷いもなく、一直線に私の処へ来て注文をとる。最近馴れっこになって、「また僕の処へ来るぞ、来るぞ…ソラ来た」ということになる。欧米人のように、日本人と明らかに顔付きの異なる人に接する時には、これだけ顔付きが違うのだから、考え方が異っても当然である、と容認してしまうのだが、韓国人のように、日本人と顔付きが全く変わらない場合は、つい、物の考え方で同じじゃないかと思いがちで、これが諸々の問題の起る原因になっているようである。とくにここで「異い」を解説する積りもないが、一つだけ挙げるとすれば、それは彼らの「不信の念」であろうか。外国人に対してだけでなく、それは同国人相手でも同じである。この点は、日本人があまりにもナアナア精神過ぎるのかも知れないのだが…。契約は勿論のこと、設計進行中においても、「いい加減信用して呉れェー」と叫びたくなること再々である。もっとも、そのような不信感を植えつけられた原因は、何度も何度も侵略された彼らの悲しい歴史にあることはいままでもないことで我々として、決してそれを責めるわけにはいかないのである。

日本のプレバブメーカーが、韓国に売込みを計ったことがあるそうで、床下にオンドルも付けた、厳しい冬の寒さに対する断熱効果も高い、値段も決して高くない、だが彼らには受け入れられない原因があった。壁が薄いのだそうである。断熱効果だけでなく、いつ何時機関銃や大砲の弾が飛んで来るかわからない、だから建物の壁は35センチ以上

ないと、とても不安で仕方がない。このように、この国が今でも戦時下にある、ということも我々は忘れがちで、灯火管制や、防空演習の場などに居合わせる時にも、ハッとさせられることが多く、これは悲しき現実である。

夜の11時以降の外出禁止令が解かれたのも、確か、つい3、4年前のことである。戦後30数年間、11時までに帰宅しなければならないクセがついているため、彼らとウキスキーでも飲もうものなら（ウキスキーは物凄く高いが）10時頃までに出来上がってしまわなければならない。これも悲しい習慣が今だに残り、ピッチが早い上に、ストレートでグイグイやるし、献盃、返盃の連続で、お酒に多少自信のある人でも、多分自信を失ってしまうに違いない。これは全く笑えない冗談のような話であるが、これもまた寂しい。

いずれにせよ、このような国で仕事をしようというのであるから、郷に入らば郷に従い、緊張感と、88年ソウルオリンピックに向けた躍動感のみをなぞる社会の中で、韓国人より韓国人らしいフェイスを生かしながら、隣人として、これからも仲良くして行こうと考えている次第なのである。

---

**堺デザイン協会 第2回総会**


---

昭和60年5月28日 堺市立勤労会館第5会議室  
開会・午後6時40分

• 岡村副理事長より出席状況報告

会員43名中出席26名委任状提出者10名で過半数以上であり総会開催定足数に達したことを確認

• 議長は会則により理事長が担当する

議長挨拶 川崎理事長

• 書記に今村忠尚、尾崎悦子両名を指名

• 議事録署名人に老健一、上野高美子両名を指名

—————拍手により承認

議事審議

第1号議案 昭和59年度事業報告及び収支決算報告

- 金子理事より事業報告
- 桑原理事よりSADAニュース発行及び広報関連事項について報告
- 森理事より収支決算報告
- 垣村監事より会計監査報告

—————拍手により承認

#### 第2号議案 昭和60年度事業計画及収支予算

- 金子理事より事業計画（案）についての説明提案
- 拍手により承認
- 事業計画概要

創立3年目を迎え会員の拡充と相互の交流、組織機能の確立と運営といった協会自体の活動に力を入れ、さらに地域社会におけるデザイン文化の向上を図るとともに適当な機会を捉えて、徐々に活動の輪を広げて行くため下記の企画を立案し実施する。

- |                |    |
|----------------|----|
| 1. 見学会         | 2回 |
| 2. SADAニュースの発行 | 2回 |
| 3. セミナー        | 1回 |
| 4. 懇親会         | 1回 |
| その他            |    |

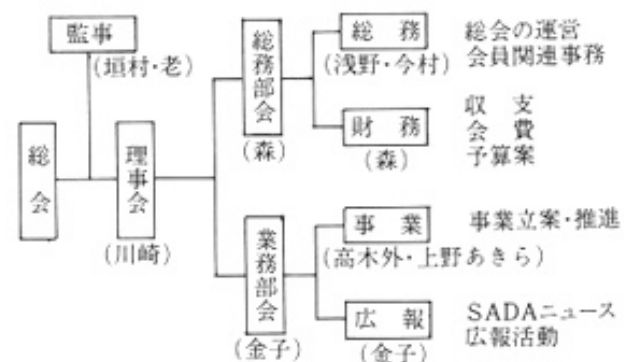
#### 第3号議案 役員改選の件（会則第12・14条）

- 選挙管理委員長要信一より通信投票の結果の発表
- 議長より岡村篤・小田順子・桑原正嗣3名の理事辞退の意向報告
- 岡村・桑原・小田理事辞退の理由を述べる。
- 会員数名より辞退の撤回を要請する発言あり
- 安永一典より議長一任とする発言あり
- 拍手により承認
- 議長は3名の辞退を認め、理事の補充は選挙結果の票数をもとに繰り上げ選出に決定、本人の了解を得る
- 新理事は浅野正道・上野あきら・今村忠尚・金子誠之助  
川崎浩・高木外・森和雄
- 新監事は投票結果により、垣村三平・老健一両名に決定了解を得る。
- 別室にて理事互選の結果、理事長川崎浩・副理事長金子

誠之助に決定報告された。

—————審議終了

- 塔デザイン協会の組織と機能



- 閉会 8時15分

## 事業計画

- 見学会（2回）
  - ①場所：ミノルタカメラ棟 実施予定：60.9.5(木)
  - \*見学終了後、会員懇親会を予定しております。
  - ②場所：企画 実施予定：61.3初
- SADAニュース発刊（2回）
  - 発刊予定：No.3 60.9末 No.4 61.3末
- セミナー
  - 内容：企画 実施予定：60.11初
- 懇親会
  - ①セミナー及び見学会開催時に行う
  - ②内容：企画 実施予定：61.1末
- その他 対外事業に於いても積極的に取り組んでいく予定です。

## 企業が創る

### ラジコン芝刈機

久保田鉄工株式会社

刈り整えられた芝生の庭や公園、ゴルフ場はまさに芝で織られた「緑の絨毯」を敷きつめた感じです。しかし、この美しい芝を維持するためには、暑さと埃にまみれた苦しい作業や起伏の多いゴルフ場での転倒の危険のある作業がともなっています。この難作業を解決するため、当社では長年の蓄積された技術を駆使し、いま、ラジコン芝刈機が誕生しました。この芝刈機のラジコンは無許可微弱電波を使用していますので誰にでも操作できます。ラジコン運転は8チャンネルで種々のコントロールができ、特に芝刈り作業には自由自在な走行が要求されますので2輪、4輪ステアリング及びCARB(蟹)ステアリングで小廻りがきき蟹のように横這い走行が特長で樹間作業がやりやすくなっています。また、ラジコン運転では前後40° 横方向30°の最大傾斜角で作業可能ですから危険な傾斜地作業を楽々こなします。移動や平地では手動運転に切換え、HSTによっての無段変速走行は運転が容易です。



デザインポイントは数々の先進技術を秘めた新製品にふさわしい、新しい「カタチ」の創出です。傾斜地を這うように走行する安定感のある、そして使われる環境にマッチし、オペレータにも見守る人達にも異和感を感じさせない愛されるロボットの造形とカラーリングを追求しました。乗用として使用のため種々の自動機構操作に対するデザイン配慮とともに乗降のしやすさ、バギー感覚のスタイリングは作業を楽しむというオペレータの心理的満足を得られると思います。

## ズームアップ

### メルヘンチックニュータウン

田中賢次

夏の暑い日差しがつくる短い影は、この新しい街の、画一的な高層住宅群の表情を、より無愛想で、味気のないものにしていく。

それら住宅群の一角に、しかも何の主張をも持たない建物の一部に、まるで遊園地か幼稚園でしか見られないようなメルヘンの香りのするデザインを見つけた。

それが何であるのか？何を意味するものであるのかは集合住宅の棟番号、入口表示であるとわかるまでには、そんなに時間がかからなかったような気がする。

単にスケールアウトされたアルファベット文字と数字との組み合わせが、その表現手段とも合わせて、メルヘンチックで、しかもユニークなものとして感じるのは、人工の街泉北ニュータウンにあるからでしょうか。



パターン化された生活、その繰返しと惰性の中で、あまりにも無意識に物事を見、概念的にとらえることが多いように思うのは自分自身だけ？ ……………反省



## 堺・今・昔

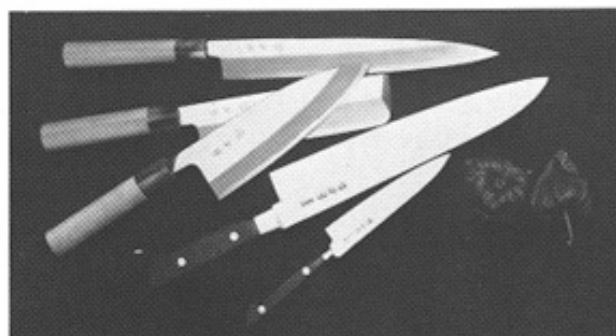
### 堺 打 刃 物 (1)

老 健一

庖丁一本さらしに巻いて、と歌われる庖丁は、舞台の設定が法善寺であってみれば、当然堺の打刃物である庖丁といえる。堺の庖丁は料理のプロである板前さんに抜群の人気があるようである。

それは、いつまでもよい切れ味を持続し、しかも使う人の立場になって考えられた使いやすさ、例えば、堺で開発された出刃庖丁は硬い鯛の骨を切るために、刃の先端部を薄く元を厚くし、柄は握りつづけても疲れないよう太めに作られ、重心が刃と柄の付け根になるように工夫されていることから、一日中庖丁を使うプロの人に喜ばれるわけである。つまり人間工学的な考えが古い元禄初年（1688）頃からの伝統によって庖丁に表われたといえよう。

堺打刃物の切れ味のよさは、「鍛接法」と「本焼法」という日本刀と同じ工程によって作られるからで、洋風の庖丁のように一枚の鋼板から作るのではなく、炭素の少い極軟鋼の地金に高炭素鋼の刃金を接いで、鍛造される、さらに刃物



の素質を決定する焼き入れは、堺独自の工夫があり、刃先から刃元まで平均した焼き入れになるよう粘土を塗って乾いたところで熱処理するので、火の当りに強弱がないという上質な刃物の基本ができる。

昭和57年3月、堺打刃物は伝産法（伝統的工艺品産業の振興に関する法律）の指定を受けたが、美術工艺品の多い伝統工芸のなかで打刃物が認められたことに、堺刃物の使える美しさ、工芸の本質をみることができる。

## E - スポット

### PIZZA HOUSE "chianti" (キャンティ)

桂 智子

その一瞬、都会の騒音をすっかり忘れさせてくれる物静かな雰囲気のパIZZA・レストランが、そこにあった。

ご主人特撰の多種の野菜を、こくのある美味しさのあついスープに仕立て、オイルサーディンのパIZZAや、パイナップルをあしらったハワイアンパIZZAなどを、イタリアンワインとともにたっぷり味わえる。

ご夫妻は、8月を「定休月」とし、世界の散策に出かけ各地の料理に接しては、新しい味の収集に余念がない。職人気質ともいえる味つくりの名人だ。

堺東駅から、2つ3つ北の踏切を、東へ渡った所です。

定休日 火曜 定休月 8月  
 平日 PM4:00~PM10:00  
 土・日・祝 PM12:00~PM10:00  
 TEL 0722-28-1328



### 新会員のプロフィール

#### ■株式会社マルナカ（賛助会員）

戦後の混乱期の昭和21年、将来のスポーツ・レジャー用品の普及を見込んで、前身の大正元年に創立された、かばん・袋物販売店と並行して、再スタートを切りました。以後、官公庁・市内各学校・臨海工業地帯の企業を中心に拡販に努め、また昭和47年には新社屋ビルが完成し、南大阪随一の総合スポーツ用品店として多くの皆様にご愛顧をいただいております。

今夏からは新たにウインドサーフィンの販売を開始し、今後ますます多様化していくスポーツ・レジャー産業の発展に寄与していく所存であります。

### 会員ニュース

#### ■横田弘文さん第8回大阪産業デザインコンテストに入賞

大阪産業デザインコンテストは大阪産業の代表的な製品の中からテーマを選び広く全国から公募するもので今回はタオルをテーマにとりあげ、現代の多様化した生活環境にフィットしたタオル及びタオル地の使い方について具体的な提案が求められた。横田さんはタオル地の持つ特性をクッションカバーに生かしたイージーチェア(写真)を発表。椅子の背と座の部分の円棒にウレタンフォームを巻きつけタオル地で包んだユニークなデザインで銅賞を獲得した。

(60. 2)



### 博多だより

坂下順二

この3月に、大阪から福岡へ転勤しまして、早や半年になろうとしています。

現在、福岡で、九州・沖縄地区のホテル・店舗等のインテリアをデザインしています。業務そのものについては、大阪在勤中与相違ないのですが、地域性というものがデザインに与える影響について、考えさせられる面が多々あるようです。

気候一つとりあげても、おだやかな近畿とは異り、沖縄・石垣島等では、デザインの各種の条件の中に、自然という項目が、大きなウエイトで入って来ています。

例えば、台風・塩害・耐光・空調等、その中でも、台風に関しては、マンホールのフタが木の葉のように舞う、台風銀座の沖縄等では、当然建築も、風に抵抗し、防ぐだけではなく、いかに風の道を作り、風を逃がすか、といった柔軟な考え方が建築にも取り入れられています。

とにかく大阪に居ては知り得なかったことが、一つ一つ自分自身の血となり肉となって行くのを感じている現在です。いろいろ書きたいこともあります、とりあえず現状を報告させていただき、あわせて、転勤後もスリーピング会員としてのご配慮をいただいたSADAのメンバーの方々に、紙上をおかりしまして、お礼を申し上げ、会の発展をお祈りいたします。

●SADA入会ご希望の方は、事務局またはお知り合いの会員にご相談下さい。

## 第10回堺ゆかた祭コンテスト

去る8月1日午後6時より堺市民会館で行われた「堺ゆかた祭」は今年で10回を迎えた。これを記念して盛沢山のアトラクションや景品も用意され、予備審査に合格した作品41点が出品された。

最終審査の結果、金賞には新垣多美江さんの作品「粋」が決定し、副賞として沖縄旅行が開催委員会よりプレゼントされた。銀賞は堺デザイン協会理事長賞として川中尚代さんのブルゾンと 檜皮澄世さんのタウンウェア に贈られた。

上位入賞作品はいづれ劣らぬ感性と工夫がこらされたものであるが、銀賞2点は特にデザインという視点から、若者の未来を指向する作品が選ばれた。それぞれ今後の活躍が期待される。

審査委員長 小田順子 審査委員 岡村 筈

## 世界の茶 文化博“堺”

堺市は「堺21世紀計画」の発足記念初年度事業として、今秋“茶”をテーマとした「世界の茶 文化博“堺”」を開催する。堺は、茶の湯を大成した千利休輩出の地。また日本の茶と茶の湯文化が堺港を通してオランダなど海外諸国に広まったということから文化博のキーワードに“茶”が取り上げられた。

人間の最も、身近な文化である“茶”の世界を、緑茶、紅茶、中国茶、コーヒー、ココアまであらゆる角度から見つめ直し、お茶が人の暮らしに与える潤いと心の豊かさの本質について考え合う機会をつくと同時に、諸外国の“茶”にまつわる文化に触れることによって、国際感覚を培うことを目的としている。

なお、この文化博は、「堺21世紀計画」の当面の一大目標である昭和64年の「市制100周年記念事業」のイベントとして、また来年5月、大仙公園で開催される「第37回全国植樹祭」のイベントとして位置づけられている。

名 称	世界の茶 文化博“堺”
会 期	10月26日(土)～11月4日(月)(10時～17時)
会 場	大仙公園内(憩いの広場・記念塔広場・茶室等)
主催・運営	堺市・堺市教育委員会・堺商工会議所・堺市農業協同組合・堺文化観光協会・大阪21世紀協会
開催テーマ	まちに憩いと潤いを 一茶を生み出した堺から都市の緑を育もう— 文化博の展開
テ ー マ 館	直径10メートルの5つのドーム型パビリオンを設け、開催テーマを「創・健・楽・美・造」で個々に展開する。
サブテーマ館	全国植樹祭のプレイベントを表わすグリーンコーナー
茶 室	堺の茶人による茶の湯を行う
パズル館	世界のお茶と関連する器・道具・菓子・文物の展示即売。
そ の 他	生産地の茶摘み娘等によるフィールドイベント、お茶を飲みながらの討論会“Tea・チイン”、焼物コーナー、飲食コーナーなどのイベントやエンターテイメントを実施する。
入 場 料	大人600円 子ども400円 (前売100円引)

## 秋の文化・スポーツ催事

### ■堺市の三大催事

- 市民オリンピック 10月10日 金岡公園
- 堺まつり(前夜祭) 10月19日 市民会館
- (パレード他) 10月20日 大小路他
- (パレードには女優沢口靖子さんが出場する)

- 農業祭 11月23日 大仙公園

### ■博物館の展示(5周年)

- 特別陳列「矢立」 ～9月29日
- 写真パネル展「堺の史蹟・名勝・天然記念物」  
9月1日～10月10日

- 秋季特別展「堺の仏像・仏画」 10月6日～11月10日
- 堺市展（日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・書道・てん刻） 10月20日～11月4日
- Y M C A 展 11月17日～11月25日

■秋の四大祭り

- 開口神社「八朔祭」（ふとん太鼓） 9月12日～13日
- 百舌鳥八幡宮「観月祭」（ふとん太鼓） 9月28日～29日
- 大鳥神社「秋祭り」（だんじり） 10月5日～6日
- 桜井神社（こおどり） 10月6日

■大阪21世紀計画・秋の主なイベント

- イベントシテイ岸和田カーニバル  
9月、南海本線岸和田駅前から旧港まで
- '85御堂筋パレード 10月6日 御堂筋
- テクノ大阪'85  
10月7日～10月10日 インテックス大阪
- 国際シンポジウム「未来社会とヒューマニズム」  
10月8日～10月9日 大阪商工会議所
- 第2回国際デザイン展「デザイン・サーカス'85」  
10月17日～11月4日 インテックス大阪
- 第28回技能五輪国際大会（技能オリンピック）  
10月21日～10月27日 関西技能開発センター他
- 大阪中小企業デザイン振興会議  
10月25日 インテックス大阪
- 第1回国際バイオテクノロジー会議  
11月5日～11月8日 都ホテル大阪
- '85全日本大学女子駅伝—国際大学女子招待—  
11月10日 長居陸上競技場～大阪城
- '85大阪国際ファッションフェスティバル  
11月11日～11月16日 大阪城ホール・OMM
- フード'85大阪  
11月12日～11月17日 インテックス大阪
- 中国投資・貿易コンベンション  
11月25日～11月29日 大阪商工会議所
- 御堂筋ショーウィンドーコンクール  
秋 御堂筋沿道

- 1万人の第九コンサート  
12月1日 大阪城ホール
- 御堂筋光のフェスティバル  
冬 御堂筋沿道
- '86大阪国際女子マラソン  
61年1月26日 長居陸上競技場～大阪市役所

表紙の写真

堺市博物館は堺の文化のシンボリック的存在として大仙公園の一隅に静かに建っている。親子づれで良し、若者のデートコースにも適当。展示品の見事さもさることながら、建物の合理的デザイン思想がよくうかがえる。設計：日建設計・大阪。56年度大阪都市景観建築賞を受賞している。

（広報委員 山崎 晶）

編集後記

SADA ニュースも今回で第3号の発行となり、1人前の広報誌として、今、着実に歩みつつあります。

今までの広報委員の方々に加え、新しく広報を担当されました金子さんを中心に、女性会員の小田さん、桂さんにも加わっていただき、ソフトでマイルドな誌面作りを、と委員全員頑張っております。

今回は、淡輪での福島先生のお話しや、川崎さんの中国紀行文、それにシリーズのSADA FORUMに加え安永さんの韓国レポート等々、内容も豊富です。

これからも会員の皆さんのご参加により、より一層充実した内容を、と考えておりますので、ご協力の程よろしくお願ひします。（広報委員 田中賢次）

会報 SADA 3号 昭和60年9月25日 発行	
発行	堺デザイン協会 〒590 堺市北向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内 TEL 0722-29-5011
編集	堺デザイン協会広報委員会